

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語 I B
科目基礎情報					
科目番号	0050		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	教科書：坪内稔典・他 編，「改訂版 高等学校国語総合」（数研出版）参考書：「改訂版 高等学校国語総合 準拠ワーク」（数研出版），本校指定の電子辞書．				
担当教員	熊澤 美弓				
到達目標					
古典学習を通じて，当代の人間の考え方や生き方を知ることから始まり，加えて現代に生きる日本人として必要な「古典文学」の基礎知識の獲得と読解力の向上を果たすことができる．					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	古文・漢文について，音読・朗読もしくは暗唱することにより，特有のリズムや韻などを味わい理解することができる．		古文・漢文について，音読・朗読もしくは暗唱することにより，特有のリズムや韻などを味わうことができる．		古文・漢文について，音読・朗読もしくは暗唱しても，特有のリズムや韻などを味わうことができない．
評価項目2	代表的な古文・漢文を読み，言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し，人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる．		代表的な古文・漢文を読み，言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し，人間・社会・自然などについて考えることができる．		代表的な古文・漢文を読み，言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり，人間・社会・自然などについて考えることができない．
評価項目3	教材として取り上げた作品について，用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや，時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる．		教材として取り上げた作品について，用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや，時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を理解できる．		教材として取り上げた作品について，用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや，時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を理解・習得することができない．
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本科目は，高等専門学校の国語の基礎能力を「古文・漢文」の分野を中心にして身につけさせる．まず，「古典」学習の意義（(1)当時の人々の考え方，生き方を知る．(2)古典を通じて現代の自分たちの生活，考え方，生き方を捉えなおす．）を再確認する．具体的には，中学校までの古典学習の総復習を含めながら，高専生としてそして現代に生きる日本人として，必要な古典文学の基礎知識の獲得と，読解力の向上をねらいとする．				
授業の進め方・方法	・すべての内容は学習・教育目標（A）の<視野> <意欲>，及び（C）の<発表>に対応する． ・授業は講義・演習形式で行う．講義中は集中して聴講する． ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする．				
注意点	<到達目標の評価方法と基準> 下記授業計画の「到達目標」のすべてを網羅した問題を2回の中間考査，2回の定期考査とレポート等で出題し，目標の達成度を評価する．各「到達目標」の重みは概ね均等する．合計点の60%の得点で，目標の達成を確認できるレベルの試験を課す． <学業成績の評価方法および評価基準> 前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点を60%，課題提出，小テスト，授業中の黒板での問題演習への取り組み等の結果を40%として評価する．ただし，前期中間・前期末・後期中間・学年末試験の4回の試験ともに再試験を行わない． <単位修得要件> 与えられた演習課題を提出し，学業成績で60点以上を修得すること． <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 中学校卒業程度の国語能力，特に「古文・漢文」についての基礎学力を身につけていることを前提とする． <レポートなど> 理解を深めるため，すべての教材に演習課題を与える．また，古典文法小テスト，古典名文の暗唱テスト，ノート提出等を課する． <備考>授業中は学習に集中し，内容に対して積極的に取り組むこと．また，ノート，課題は期限厳守して提出すること．なお，本教科は後に学習する国語Ⅱ，日本文学，言語表現Ⅰ・Ⅱ，文学概論Ⅰ・Ⅱの基礎になる科目である．				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	古文入門および学習方法について（「古典学習の意義」としての「温故知新」）	1．「古典」の学習の目当て「温故知新」の意義を理解し，学習する意義を確認する．	
		2週	古文入門 「児のそら寝」①（「宇治拾遺物語」） 古文チェックポイント1（古文の特徴）	2．音読を通して現代文との違いに注意しながら，古文を読むための基礎(歴史的仮名遣い等)を理解している． 3．登場人物の心理に注目して，古文の世界を理解し，古文を読むための基礎(品詞等)を理解している．	
		3週	古文入門 「児のそら寝」②（「宇治拾遺物語」） 古文チェックポイント2（古語・品詞）	上記2・3に同じ．	
		4週	古文入門 「検非違使忠明」①（「宇治拾遺物語」） 古文チェックポイント2（活用形）	上記2・3に同じ．	
		5週	古文入門 「検非違使忠明」②「宇治拾遺物語」） 古文チェックポイント3（用言）	上記2・3に同じ．	
		6週	古文入門 「検非違使忠明」③（「宇治拾遺物語」） 古文チェックポイント3（動詞）	上記2・3に同じ．	
		7週	古文チェックポイント4（係り結び等） 前期中間までの復習	4．古文を読むための基礎（係り結び等)を理解し，前期中間までの学習内容を理解している．	
		8週	前期中間試験	上記1～4までの内容を理解し，説明することができる．	
	2ndQ	9週	前期中間試験の解説と総括 随筆 「つれづれなるままに」①（「徒然草」）	5．前期中間試験の内容を理解した上で，三大随筆のそれぞれの文学的価値を理解している．	

		10週	随筆 「つれづれなるままに」②（「徒然草」） 古文チェックポイント3（形容詞）	6. 兼好法師の人生観および「徒然草」の世界観を理解し、古典文法の基礎学習（形容詞）の学習内容を理解している。
		11週	随筆 「神無月のころ」①（「徒然草」） 古文チェックポイント3（形容動詞）	7. 音読を通して現代文との違いに注意しながら、古典文法の基礎学習（形容動詞）の学習内容を理解している。 8. 作者の心理に注目して、古文随筆の世界を理解している。
		12週	随筆 「神無月のころ」②（「徒然草」）	上記7・8に同じ。
		13週	随筆 「ある人、弓射ることを習ふに」①（「徒然草」） 古文チェックポイント5（助動詞①）	9. 音読を通して現代文との違いに注意しながら、古典文法の基礎学習（助動詞）の学習内容を理解している。 10. 登場人物の心理に注目して、古文随筆の世界を理解し、古典文法の基礎学習（助動詞）の学習内容を理解している。
		14週	随筆 「ある人、弓射ることを習ふに」②（「徒然草」） 古文チェックポイント5（助動詞②）	上記9・10に同じ。
		15週	古文チェックポイント5（助動詞②） 前期末までの復習	11. 古典文法の基礎学習（助動詞）の学習内容を理解し、前期末までの学習内容を理解している。
		16週		
後期	3rdQ	1週	前期期末試験の解説と総括 漢文入門 入門一 漢文チェックポイント1（訓読の基礎）	12. 前期期末試験の内容を理解した上で、漢文の特色を学んで、漢文訓読の基礎（訓点・書き下し文等）を理解している。
		2週	漢文入門 入門二① 漢文チェックポイント2（再読文字・助字）	13. 漢文の特色を学び、漢文訓読の基礎（再読文字等）を理解している。
		3週	漢文入門 入門二② 漢文チェックポイント2（置き字）	14. 演習などに出て来た格言を読み、漢文の世界を理解でき、漢文訓読の基礎（置き字等）を理解している。
		4週	故事 漁夫之利① 漢文チェックポイント3（否定・疑問の句法）	15. 故事成語の学習を通して、戦国時代の諸国と遊説家の言行を理解し、漢文の句法（否定・疑問）を理解している。 16. 故事成語の学習を通して、文学史的価値を理解し、漢文の句法（反語・感嘆）を理解している。
		5週	故事 漁夫之利② 漢文チェックポイント3（反語・感嘆の句法）	上記15・16に同じ。
		6週	故事 狐借虎威① 漢文チェックポイント4（使役・受身の句法）	17. 故事成語の学習、戦国時代の諸国の情勢を理解し、漢文の句法（使役・受身）を理解している。 18. 故事成語の学習を通して、その文学史的価値を理解し、後期中間までの学習内容を理解している。
		7週	故事 狐借虎威② 後期中間までの復習	上記17・18に同じ。
		8週	後期中間試験	上記12～18までの内容を理解し、説明することができる。
	4thQ	9週	後期中間試験の解説と総括 歌物語 「芥川」①（「伊勢物語」）	19. 後期中間試験の内容を理解した上で、歌物語の展開をおさえながら、古典の内容を理解している。
		10週	歌物語 「芥川」②（「伊勢物語」） 古文チェックポイント8（和歌の修辞）①	20. 音読を通して現代文との違いに注意しながら、和歌の修辞法の学習を通して、歌物語の特徴を理解する。 21. 登場人物の心理に注目して、古文の世界を理解し、文法（付属語）の応用学習内容を理解している。
		11週	歌物語 「芥川」③（「伊勢物語」） 文法の応用学習1（助動詞）	上記20・21に同じ。
		12週	歌物語 「東下り」①（「伊勢物語」） 文法の応用学習2（助動詞）	上記20・21に同じ。 22. 登場人物の心理に注目して、古文の世界を理解し、古典文法の基礎学習（助詞）の学習内容を理解している。
		13週	歌物語 「東下り」②（「伊勢物語」） 古文チェックポイント8（和歌の修辞）②	上記20. 21. 22に同じ。
		14週	歌物語 「東下り」③（「伊勢物語」） 古文チェックポイント6（助詞）①	上記20. 21. 22に同じ。
		15週	古文チェックポイント6（助詞）② 学年末までの復習 年間授業のまとめ（アンケート）	23. 古典文法の基礎学習（助詞）の学習内容を理解し、学年末までの学習内容を理解している。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	課題・小テスト	発表・暗唱	ノート提出	合計
総合評価割合	60	20	10	10	100
配点	60	20	10	10	100